



琉球大学

第29号

同窓会会報

平成19年3月1日



同窓会銘碑

同窓会事務局窓際に平成17年12月20日設置

目次

■ 会長就任挨拶	2
■ 同窓会事務局活動報告	3
■ 同窓会事務局情報	4
■ 支部活動状況報告	8
■ インタビュー(沖縄県教育長・仲宗根 用英)	16
■ 私の研究(比嘉 照夫～未来を拓くEM技術～)	18

会長就任挨拶



琉球大学同窓会
会長 赤嶺健治

私こと、2006年7月15日開催の平成18年度本会定期総会において、第八代会長に選出されました。1960年英文科8期卒業です。

創立53年目を迎えた、会員数62,000人余の大きな組織の会長をうけ賜り、身に余る光栄と存じますとともに、その責任の重大さを痛感いたしております。

さて、ご存知のとおり、本会の目的は、会員相互の親睦をはかり、母校の発展に寄与することです。会員各位が、県内外の各界各層でめざましい活躍をされ、公私にわたり固い同窓の絆で結ばれておられることは、誠に頼もしく、喜ばしい限りです。

私たちの母校琉球大学が、2004年の独立法人化以来、法科大学院や観光科学科の新設、全6学部での博士課程設置完了など、計画どおりの目ざましい発展を遂げつつありますことは、誠に同慶の至りです。

本会が、10年毎の大学創立記念事業への協力や、毎年の在学生への課外活動や就職活動支援などを通じて、母校の発展に寄与し得た喜びを会員の皆様と分かち合うと共に、これまでのご支援とご協力に対して、この場をお借りして、深甚なる謝意を表する次第です。

会長就任にあたり、一言抱負を申し上げたいと思います。本会の現年度の事業計画で掲げた10項目の中でも、「組織の強化」が最重要課題だと考えております。本会は、すでに関東、関西、九州・山口、奄美、久米島、宮古、八重山、と7つもの支部を持っています。従来と同窓会本部より各支部への活動支援のほか、本部、支部、学部・学科同窓会間の交流連携と縦横のつながりのより一層の強化により、組織と事業の強化拡充を推進してまいりたいと存じます。会員各位の高い誇りと強い連帯感は、即その実現に向けての心強い支えであります。

会員各位及び役員、事務局長以下のスタッフ、ならびに大学当局のご支援とご協力を頂きながら、精一杯、この大任を務めさせていただく所存です。ご指導、ご助言のほどよろしく願いいたします。

終わりに、本会のこれまでの発展の功労者であられる、過去の会長（現顧問）をはじめ、副会長、評議員、監査員の旧役員諸氏、ならびに事務局長以下の旧スタッフへの衷心よりの謝意と敬意を表します。

以上、所信の一端を申し述べまして、会長就任のごあいさつといたします。

同窓会事務局活動報告

平成18年度定期総会状況報告

平成18年度定期総会で審議された事項の概要は次のようになっています。

開催日時 平成18年7月16日(土) 会場:午後5時 ホテルロイヤルオリオン

①平成18年度事業計画

事業項目	事業内容
組織の強化	同窓会支部活動支援及び各支部、学部、学科、同窓会との交流、連携強化を図る。
入会金 終身会費	入会金徴収及び終身会費の納入督促に努め入会金と終身会費制度の検討を進める。
会報の発行	会報を年1回発行し、事務局活動の広報と会員の活動状況を掲載し、情報を共有して会員相互の連携強化を図る。
新入生への 記念品贈呈	入会を祝し、会長メッセージと記念品CD(琉球大学の歌、琉大逍遙歌等収録)と会報を贈る。
在学生の 活動支援	課外活動援助及び学内で職業講話を実施し、職業に対する意識の高揚と就職活動を支援する。
50周年記念館 の活用等	50周年記念館の活用を図り、同窓会活動の拠点とする。
インターネット の活用	ホームページを活用して情報発信を強化する。また、Eメールの積極活用により情報送受信の迅速化を図る。
大学グッズの 製作販売	大学グッズ(琉大ウェア・Tシャツ)を販売し、琉球大学をアピール出来るように努める。
沖縄寮歌・大学 の歌祭り参加	県内外の大学及び旧制高校OBとの交流親睦を深める。
会員名簿等個人 情報の管理強化	個人情報保護法の制定実施を受け、名簿等個人情報を管理する規定を制定し、情報請求者への対応を厳格に行う。

②平成17年度決算と平成18年度予算概要

平成17年度決算概要		平成18年度予算概要	
(1)収入総額	27,004,582円	(1)収入総額	30,556,851円
(2)支出総額	11,447,731円	(2)支出総額	18,220,000円
①運営費	8,482,862円	①運営費	8,220,000円
②事業費	5,967,942円	②事業費	10,000,000円
③その他	0円	③その他	900,000円
(3)繰越金額	15,556,851円	(3)繰越金額	11,325,055円

③平成18年度支部長会開催

恒例になった平成18年度支部長会が、定期総会の前1時間を利用して、開催しました。

今年も6支部から支部長または、代理が出席しました。関東支部の渡久山長輝さんからは、これまでの活動と平成18年10月には、支部結成20周年になるので、記念祝賀会を開催する旨の報告がありました。ホームページの第二サイトを開設したことのお知らせがありました。

続いて関西支部からは新しく就任しました金城盛紀さんが、最初の「支部長会」参加をしました。各支部を参考にして活動していきたいと決意表明していました。

つぎに九州・山口支部から昨年就任した照屋常信支部長、奄美支部から大津幸夫副支部長、久米島支部から上江州盛元支部長、宮古支部から安谷屋章支部長が、本部に対する要望などをふくめ、独自活動報告がありました。

特筆されることは、久米島支部と宮古支部が、高校生に激励会をもったり、地域のこどもたちへの研修交流会として「地域子ども教室」を開催した旨の実践報告がありました。

同窓会事務局情報

1. 球大学同窓会「三役会」情報

琉大同窓会では、これまで会長、副会長の役員による会議を「役員会」として会議していましたが、今回から「三役会」とすることにしました。これは、事務局長を含めた三役で会議することを11月30日開催の第2回役員会で決定しました。会則改正を審議しています。



2. 個人情報管理委員会の情報

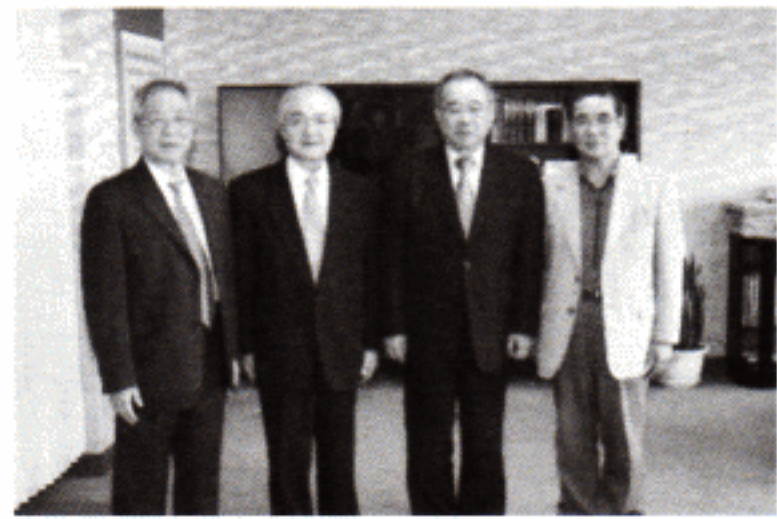
個人情報保護法の波高を受け、同窓会においても名簿を主体にした管理に関する規定の制定が急がれていました。平成18年度の事業計画に重点目標となっていました。委員会を結成して取り組みました。第1回委員会を平成18年11月17日に開催しました。第2回委員会は平成19年1月31日に開催し、「琉球大学同窓会個人情報保護規程」として制定が決まりました。その規程は、同窓会ホームページに公開し、同窓会「会報第30号」に掲載する予定にしています。写真は、当山法律事務所において「規程制定」審議スナップです。



3. 同窓会役員学長へ新年の挨拶

同窓会役員が森田孟進学長に新年の挨拶するため平成19年1月17日午後1時30分から表敬訪問しました。赤嶺健治会長及び與儀憲徳副会長と宮城武久事務局長が訪問しました。

学長は今年が最後の年となるが、同窓会と連携を密に行きたいと表明して下さいました。会長からは、創立草創期の首里キャンパス時代の学生処分のこと、現在課題となっている入会金徴収のこと、入学生の名簿提供のこと等について要望も出されました。



(右から2番目)森田学長

4. 第35回沖縄の寮歌・大学の歌祭り

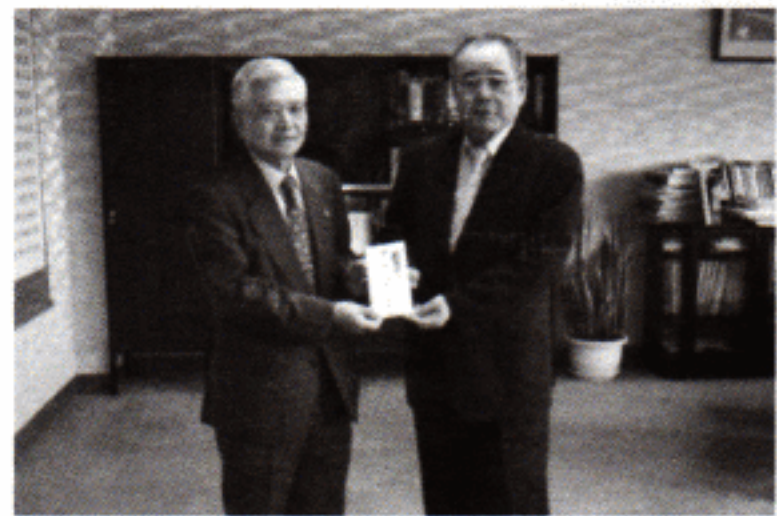
平成19年2月4日定例会場となっている“メルパルク沖縄”で行われました。この会場は、経営上の都合から今年で最後となりました。慣れ親しんだ方々には感慨が一入な面持ちでした。本同窓会も何時にない大人数20人で参加し、氣勢を上げました。この行事に参加協力いただきました方々ご苦労様でした。



5. 琉球大学支援活動

1) 学生課外活動援助費の贈呈

平成18年2月8日学長室において、恒例になった学生に対する課外活動援助費として、100万円を比嘉正幸会長から森田孟進学長に贈呈しました。有効活用を期待しています。



平成17年度課外活動援助費の贈呈
比嘉会長(左) 森田学長(右)

2) 平成18年度教員選考試験受験講座実績

平成15年度から実施しています「職業講話」を今年からは、教員を目指す大学院生と学生及び卒業生に対し、「教員選考試験受験講座」を開催しています。この講座

計画は、90分の27回開講します。講師は同窓の先輩が主体となり、各分野のエキスパートが担当しています。

この年間計画を別紙に掲載してお知らせします。講座はテキストも作成し、用意しています。無料ですので、多くの方が受講されることをお待ちしております。



3) 平成18年度教員選考試験受験講座実施計画表

現役合格者による受験体験発表

月/日	指導内容	講師	講師略歴
10/25	教育時事(教育職員公務員)	津留健二	元県教育長
11/8	教職教養Ⅰ・学習の基礎	宮城武久	元高校長
11/22	教職教養Ⅱ・学習指導要領	津留健二	元県教育長
		浜比嘉宗隆	元小学校長
11/29	一般教養学習Ⅰ・人文系	金城永真	元高校長
12/13	一般教養学習Ⅱ・自然系	金城永真	同上
12/20	合格の秘訣とアドバイス	※(本年度合格者)	
2007年1/17	教職教養Ⅲ・生徒指導1	瀬名波栄啓	元高校長
1/31	教職教養Ⅳ・生徒指導2	瀬名波栄啓	同上
2/7	教職教養Ⅴ・琉球歴史1	比屋根為勝	歴史家
2/14	教職教養Ⅵ・琉球歴史2	比屋根為勝	同上
3/7	教育法規Ⅰ・法規の概要体系	嘉手苺喜郎	元小学校長
4/18	教育法規Ⅱ・教育基本法	嘉手苺喜郎	同上
4/25	新採教員の合格アドバイス	※(前年度合格者)	現職教員
5/9	教育法規Ⅲ・教育委員会	嘉手苺喜郎	元小学校長
5/23	教育法規Ⅳ・教員資格と任命	嘉手苺喜郎	同上
6/13	教育法規Ⅴ・学校設置と就学	嘉手苺喜郎	同上
6/27	自己アピール文作成と指導	宮城武久	元高校長
7/4	英文自己紹介文作成要領	赤嶺健治、與儀憲徳	琉大名誉教授
7/27	英文自己紹介文作成と面接	赤嶺健治、與儀憲徳	
7/30	教育論文の書き方	嘉手苺喜郎	元小学校長
8/1	教育論文作成添削指導	嘉手苺喜郎	同上
8/3	学習指導案作成要領	高嶺朝勇	元県立教育センター長
8/6	学習指導案作成と添削指導	高嶺朝勇	
8/7	模擬授業の仕方と実践	仲筋一夫	元高校長
8/8	模擬授業の仕方と実践	仲筋一夫	同上
8/9	面接試験の心得と実践指導	幸喜徳子、 津留健二	県公安委員 元県教育長
8/10	面接試験の心得と実践指導		
5/10～6/1	志願書の記入指導と添削	宮城武久(外上記講師)	同窓会事務局長
7/4～8/10	総合指導・二次受験指導 ①教育論文添削指導 ④日英自己アピールと面接指導 ③模擬授業の仕方と実践	赤嶺健治、與儀憲徳、嘉手苺喜郎、宮城武久、仲筋一夫、金城永真	随時指導とする

4) 学生の部活動「八重山芸能研究会」に特別支援金を支給

八重山芸能研究会は結成40周年記念事業として「仙台公演」を実施しました。この費用に多額の出費を要するので、同窓会に支援要請がありました。三役会で支援を決定して、11月20日同窓会事務局において贈呈しました。



赤嶺会長(右)から八重芸研に支援金贈呈

6. 琉球大学を退職する恩師（平成19年3月）

氏名	現所属	職種	氏名	現所属	職種
大城 常夫	法文学部	教授	兼城 英夫	工学部	教授
新垣 進	大学院法務研究科	教授	福島 駿介	工学部	教授
島袋 鉄男	大学院法務研究科	教授	渡久地 實	工学部	教授
濱元 盛正	教育学部	教授	赤木 知之	工学部	教授
前原 武子	教育学部実践センター	教授	山本 哲彦	工学部	教授
與儀 誠一	理学部	教授	比嘉 照夫	農学部	教授
神里 常雄	理学部	助教授	村山 盛一	農学部	教授
山城 健	理学部	講師	篠原 武夫	農学部	教授
中山 章宏	理学部	教授	城間 定夫	農学部	教授
安澄 文興	医学部	教授	村井 實	熱帯生物研究センター	教授
真栄平房子	医学部	教授	米盛 重友	熱帯生物研究センター	助教授
芳原 準男	医学部病院	教授	上里 健次	農学部	教授
銘苅 春榮	工学部	教授			

平成18・19年度同窓会役員・評議員

役	氏名	卒業期	卒業学科	役	氏名	卒業期	卒業学科
会長	赤 嶺 健 治	8	英 文	評 議 員	仲村渠 良 雄	10	体 育
副 会 長	玉 城 忠 徳	7	体 育		前 川 朝 文	10	初 等 教 育
	與 儀 憲 善	8	英 文		金 城 永 真	12	物 理
	高 嶺 喜 子	17	英 商		名 嘉 地 用 輔	12	経 済
	幸 当 山 尚	14	体 法		前 泊 甫 美	13	技 術 教 育
		19	学 育		儀 保 博 信	14	社 会 学
顧 問	和 氣 政 雄	1	英 文		高 嶺 朝 勇	14	化 学
	富 永 元 順	2	政 治		狩 俣 信 子	15	法 政 学
	市 村 嘉 久	2	政 治		仲 筋 一 夫	15	化 学
	安 次 富 昭	2	政 治		大 城 朝 憲	16	史 学
	大 比 嘉 盛 正	2	美 術 工 芸		与 那 嶺 清 子	16	経 済
		5	英 法		我 喜 屋 稔	16	電 気 工 学
監 査 員	上 原 健 一	11	商 学		照 屋 寛 八	17	音 楽
	外 間 正 恭	16	経 済		比 嘉 正 治	18	短 法 政
	長 嶺 恭 子	33	経 済 営		奥 崎 又 子	18	家 政 語
評 議 員	森 田 恒 勝	2	経 済		平 良 柁 史	19	英 商 体 育
	宮 国 義 夫	3	法 政		石 川 清 勇	20	社 会 学
	友 寄 賢 吉	4	美 術 工 芸		島 袋 君 子	20	短 商 学
	岸 本 一 夫	5	美 術 工 芸		末 吉 康 教	20	地 理 政 済
	高 山 朝 光	6	社 会 経 済		上 江 田 広 保	21	短 商 学
	宇 地 原 朝 徳	6	体 育		下 田 寿 進	22	地 理 政 済
	友 利 徹 男	6	生 物		大 村 葉 子	24	法 経 済 政 済
	当 銘 吉 雄	7	経 済		上 原 棟 啓	25	家 法 政 文 学
	岸 本 金 三	7	経 済		大 兼 一 夫	27	英 農 法 社 会 育 健 学
	宇 垣 和 政	7	初 等 教 育		普 天 間 朝 重	27	法 社 会 育 健 学
上 原 政 喜	8	畜 産	當 真 良 明		29	法 社 会 育 健 学	
嘉 手 苅 喜 盛	8	初 等 教 育	上 原 修 彦		30	法 社 会 育 健 学	
喜 屋 武 盛	9	電 気 工 学	志 堅 原 敦 彦		31	法 社 会 育 健 学	
宮 城 武 勇	9	電 気 工 学	大 湾 知 子	31	法 社 会 育 健 学		
仲 門 武 勇	9	法 政 学	増 田 昌 人	32	法 社 会 育 健 学		
金 城 幸 秀	10	農 学		35	医 学		

支 部 長			事 務 局		
関 東	渡久山 長 輝	8	物 理	事 務 局 長	宮 城 武 久
関 西	金 城 盛 紀		英 語	事 務 局 次 長	儀 保 博 信
九州・山口	照 屋 常 信	13	法 政	総 務 部 長	大 村 進
奄 美	大 津 幸 夫	2	教 育	幹 事	仲 筋 一 夫
久 米 島	上 江 洲 盛 元	7	生 物	会 計 長	大 兼 一 夫
宮 古	安 谷 屋 昭	8	初 教	情 報 処 理	田 仲 康 克
八 重 山	伊 舎 堂 用 八	10	史 学	書 記	與 那 城 政 子

＜支部活動状況報告＞

関東支部結成20周年を迎えて

支部長 渡久山 長輝

本同窓会支部は、今年、結成20周年を迎えた。

2006年10月21日に、結成20周年総会と祝賀パーティを東京千代田区の日本教育会館で開催した。

同窓会本部からは、赤嶺健治新会長、宮城武久事務局長と琉球大学の森田孟進学長も出席され、それぞれご挨拶を頂いた。学長からは、法人化後の「琉球大学の現状と課題」、「琉球大学と未来」への展望などのご講演も頂いた。

比嘉正幸前会長も出席され、乾杯の音頭をとってくださった。ご挨拶の中に自らが会長をされていた時の関東支部との思い出を語られて、支部会員を激励くださった。

過日の総会では、ご夫人で歌人の比嘉美智子さんもお出席になり、支部会員への、すばらしい即興の短歌を創って下さった。

会では、先輩の中島政彦当会顧問から、特別講演を頂いた。同氏は、当支部の結成当時の功労者である。

講演は、支部結成から、今日までの当支部の活動を総括され、自らの上京当時の苦労話や、現在ご活躍されている「老人の生き方」コンサルタントとして、後輩への示唆に富むお話をしてくださった。

参加者は、60名近くであったが、新しい会員の出席が目立った。いつも気にしている本土出身の同窓生の出席もあり、画期的な総会となった。

東京沖縄県人会や関東沖縄経営者協会のご出席の他、初めて沖縄県東京事務所の同窓生も出席された。文部科学省に勤務している本土出身の同窓生も出席された。

余興では、近藤光江さん（芳原氏ご夫人）のオペラと同窓生の仲本光正氏主宰のクイチャー・パラダイスによる琉球舞踊があり、皆さんも1時の「琉球」への思い出にひたる事が出来た。

本祝賀パーティから初めて「琉大逍遥歌」



支部結成 20 周年祝賀記念



クイチャーパラダイスによる余興

や「琉球大学の歌・雲よ湧け 千原の空」を歌った。古い世代と新しい世代の「共通の広場」づくりが出来たと思う。

二次会も多くの皆様が出席され、ますます楽しい時を過ごすことが出来た。

関東支部は、東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、茨城在住の同窓生を「支部会員」の対象にしている。約650名の名簿を確認しているが、総会、パーティの案内の葉書は、出席するとした会員約40名、欠席すると返事した会員約90名で、住所不詳で戻ってきた葉書は約80名だ、他の約400名は、何の連絡もない。ここに実は課題がある。今後の努力もこの事を解決をしなければならないものである。

本支部は、インターネット上で、ホームページをもっている。年々アクセスもふえているが、意見の書き込みなどそう多くなく固定しているようである。

本支部では、ゴルフ同好会をつくり、3年目を迎える。今総会では、同好会員募集をした。8名の登録があったようである。支部長杯などをつくって、これも親睦を深める支部活動の一翼を担うことにしている。将来は沖縄に遠征して、本部のゴルフ同好会と親睦試合を楽しみたいものである。

今回、会員名簿を一新した。第六版を作成するにあたり不明で戻ってきた葉書が、また新しい名簿・確かな名簿づくりへと努めるつもりである。

本支部は、機関誌を発行している。「支部だより」を「芭蕉誌」と改名し、六号の発行に

なっている。同誌は各挨拶などの他、同窓生の職場訪問や各界でご活躍の会員の寄稿などで編集されている。

今回の六号は、結成20周年記念号として、琉大時代、結成時の支部への思い出や期待などの記事を多く掲載している。

「会員のオアシス」として、沖縄関係の居酒屋、琉球料理店「南風」、「かりゆし」の広告を頂いて案内している。

毎回の総会で、泡盛「久米仙」から、泡盛のご寄贈を頂いている。ここで感謝の意を表したいと思います。

毎年会場と宴席の世話下さっている「喜山」(日本教育会館)にお礼を申し上げたい。

本部から「組織強化費」として年間10万円頂いている。とても財政難の支部には、大きな財源となっている。本部へ感謝したい。

さて、支部活動の今後の課題は

一つは 会員の総会、祝賀パーティへの多くの出席者をふやすことである。

二つめは 本土出身の同窓生(琉大が国立後の卒業生)の参加者を多くすることである。

三つめは 役員の聞手をふやし、若い人に担って貰うことである。

四つめは 財源確立をして、事業活動の拡大・充実を計ることである。

五つ目は 各支部との交流である。

本支部発展の為に、ますます皆様のご協力をお願いして、稿を終えたいと思う。

関西支部活動報告

支部長 金城盛紀

平成18年度の関西支部総会及び懇親会は、7月8日午後6時半より、例年どおり大阪市大正区の居酒屋「おもろ」で開催されました。平良初男副学長、本部から比嘉正幸会長、宮城武久事務局長がご臨席くださいました。総数20名余りで、総会は予定の議事を滞りなく進行し、懇親会も和やかに盛り上がりました。



金城盛紀支部長と比嘉正幸会長

11月26日には親睦昼食会を三重県名張市の青連寺レイクホテルで楽しみました。14名の参加者が紅葉に映えるダムを見下ろす温泉につかり、くつろいで話し合いができました。療養中の山城賢孝前会長も参加して、地元に関わる万葉の歌をいくつも披露され、快気祝いにもなり拍手喝采しました。

* * *

山城氏のことを前会長としたのは総会で金城盛紀を後任にすることが決定したからです。役員会の全会一致による推薦だと言われても、「会長職」は固辞したのですが、折れました。でも、お引き受けしたからには出来るだけのことはすべきであるとの思いにいたっています。

私は琉球大学に二重の負い目があります。開学式に出席した学生としても、また、

助手として採用され助教授になるまで勤務しても、いずれの形でも最後までは全うしていません。とくに、私のような青二才を拾ってくれた、米国施政下にあった混乱期の母校を後にしたのは、責任放棄の自責の念が40余年過ぎて、二度も定年退職をした現在も払拭されません。琉球大学のため、悩み骨身を削っても変わらぬ友情をもって接してくれる旧同僚諸氏や厳しい研究状況のもとで全国的なレベルの研究活動を展開する後輩たちの活躍ぶりを見ると、彼らのお手伝いも出来ない不甲斐なさに心の痛む思いをしてきました。

このような二重の負い目が、同窓会関西支部の「支部長」職を受諾しがたくしたわけですが、同じ負い目が、視点を変えれば、引き受けてもよいのではという思いをもたらしました。同窓会は、本来、卒業生が構成する組織です。しかし、琉球大学同窓会会則は、在学した者、勤務した者にも、それぞれ、会員になる資格を与えています。これは私の好きな逆転の発想につながります。すなわち、二重の負い目がいわば二重の資格となつて、負い目を少しでも軽減できる機会になるのではないかという、^{ウィッシュフルシンキング}願望的思考です。善かれと思って行っても、結果は必ずしもそのとおりにとはならないのが人生です。善人は悪人よりも処し難い、という意味のことを中野好夫も書いています。でも、昔流に言えば古代稀の齢を過ぎた現在、肩の荷



18年度関西支部総会集合スナップ

を降ろすという消極的な意味以上に、余命を少しでも有効に使うという前向きな生き方からでも、与えられえた責務に非力を尽くしたいと思うようになりました。90歳をとっくに過ぎててもエレベーターよりは階段を選ぶ、それも重い荷物を持って、現役のお医者さんで講演・文筆活動旺盛な日野原重明新老人の生きかたも頭を横切ります。

去る9月の役員会で、漠然とした希望を現実的にするべく次のような身近で具体的な事項を検討することを、賛同を得て、その作業を始めました。

- (1) 支部会則を琉球大学同窓会会則と整合させる。「会長」を「支部長」とする、など。
- (2) 関西出身者の掘り起こしと新卒来阪者にも配慮して、支部会員の拡大に努める。
- (3) 会報の発刊。

次はその結果をご報告できるよう関西支部の皆さんともども頑張りたいと思っています。

九州・山口支部活動報告

支部長 照屋常信

九州・山口支部の平成18年度総会は、11月18日福岡市内の琉球料理店「がちまや」において開催されました。

当日は、あいにくのお天気でしたが、同窓会本部から当山尚幸副会長、長年同窓会の発展充実に御貢献なされた比嘉正幸前会長御夫妻、当支部の結成に御尽力くださった



ご挨拶する比嘉顧問夫妻

山域康正教授諸氏の御参加をいただいた上、久し振りおにお合いする会員の面々で和やかな集いとなりました。

本総会においては、口コミで支都の存在を知ったとして、3名の方が初参加されたことは嬉しいことでした。

総会の議事は、滞りなく進行し、活動報告としては、当支都の地理的な特殊性もありますが、佐賀県在住者や福岡県在住者によって、県単位で懇親会を開催した等の報告がありました。

総会終了後懇親会に移りましたが、特筆されるのは、比嘉前同窓会長及び同夫人が、米国軍政府によって創設された琉球大学の数奇な歴史や当時の学生運動等を回想しながら御挨拶なされたのには、比較的若い会員一同に感銘を与えたようで意義深いものでした。

次いで、こじんまりとした当支部の良さでもありますが、会員一人ひとり近況報告がなされ、その報告によると、「外国人留学生指導の上で、当支部で知り合った人脈が役だった。」とか、「これまでの研究者としての成果を活かして、近々、郷里に帰って後輩の指導に当たる予定である」などと様々で、それぞれの分野でその活躍や抱負が紹介され、若い者は若い者なりに、私のようなシニアはシニアなりに新鮮な刺激や元気をもたらったものでした。

懇親会は、和やかなうちに時が過ぎ、最後に同窓会支部旗をバックに全員で琉大逍遙歌を合唱して暮となりましたが、自然の流れで、比嘉御夫妻、当山副会長も御一緒に、ほぼ参加者全員で二次会へと流れていったものです。

ところで、当支都は、平成14年4月にその産声をあげてから5年目を迎えますが、当支部も例に漏れず新会員の発掘とその活動の充実が求められています。これからも同

窓会本都や各支部との連携を深めながらその課題の克服に努めたいと考えています。

以上



九州・山口支部総会集合写真

奄美支部活動報告

支部長 大津幸夫

平成19年2月3日午後6時から久しぶりの晴天に恵まれて、平成18年度奄美支部総会が開催されました。

大学から森田孟進学長と銘苅真理秘書、同窓会から比嘉正幸顧問ご夫妻と会長代理として高嶺善包副会長及び宮城武久事務局長夫妻の5名が出席しました。

森田学長からは、復帰前のように大勢の高校生が琉球大学に進学し、奄美の発展に



奄美支部総会スナップ

寄与する人材を育成するよう連携を再構築する施策を紹介していました。そのひとつとして、総会の前に「学長を囲む座談会」を同窓生と開催し、情報交換しています。

支部総会は、3年越しの開催となりました。支部役員も改選され、支部長に大津幸夫さん、副会長に大山隆さん、山田和憲さん、奥田幸恵さんが選出されました。

大津支部長は、幸いなことに今年は、支部結成20周年になるので、記念行事をもちたいと表明しています。

事務局長に信島賢誌さんと総入れ替えの感じがあります。会員の多くが奄美市役所に勤務しています。そのことから支部事務局は、信島さんが勤務する市役所に置かれるととなっています。なお、今年の新役員を次のようお知らせします。

懇親会では、信島さんのお子さんが琉舞を披露しました。更に島唄を熱唱した牧岡奈美さんは、九州で4年連続島唄大賞に輝く有名人になっています。フローアでは、山田薫旧会長はじめ、ロクチョウ節の歌に合わせて踊りも飛び出して賑わいました。



牧岡さんの島唄

奄美支部役員・平成19年度

役職	氏名	備考	役職	氏名	備考
会長	大津 幸夫	大津保育園長	事務局次長	岩切景一郎	奄美市役所
副会長	大山 隆			山下 克起	奄美市役所
	山田 和憲	奄美市役所	事務書記	押川 治	奄美市役所
	奥田 幸恵			澤佐憲一郎	奄美市役所
事務局長	信島 賢誌	奄美市役所		勝 裕美	奄美市役所

久米島支部活動報告

テーマ：楽しく長続きする支部活動を目ざして

支部長 上江洲盛元

久米島支部は、平成16年12月10日に結成されました。会員が集まりやすい11月を総会時期として、会計年度を毎年10月1日より翌年の9月30日までと規定し、平成18年度活動を去る10月から開始しております。

平成17年度は、2月14日、私たち同窓会支部が久米島高校に対して何ができるかを考え、高校側と話し合いをもちました。座談会形式で行い、高校から校長、教頭外4名、支部からは私支部長、副支部長外4名が出席しました。

座談会の内容は、久米島高校の現状と活性化、支部の役割、そして連携などについて意見交換をし、有意義な機会となりました。

7月11日には、久米島高校の授業参観を実施しました。高校側としては、生徒を励ます意味でいつでも参観をとということでありました。

9月23日は、琉大久米島出身在学生激励交流・親睦レクリエーションを催しました。昼はふれあい公園で琉大生5名を含め親や支部会員25名が参加し、グラウンドゴルフを楽しみました。

そして、午後7時よりレストラン「竜」で親睦交流会を持ちました。学生たちはひとり一人、あいさつで学生生活や抱負などを話し、先輩たちとの懇談が盛り上がり、参加

した親も大変喜んでくれました。学生たちには、支部から一人あたり沖縄本島からの旅費として2万円を補助しました。

平成18年11月24日、18年度の定期総会を開催しました。琉大同総会から赤嶺健治会長、大学当局から農学部長の宜保清一先生がご出席され、激励をいただきました。開会行事として、久米島自然文化センターの上江洲均館長(副支部長)による「久米島の歴史・文化講座」 演題:「現代久米島の名字一名前の民俗学一」が開かれ、大変好評を拍しました。

平成18年度これからの活動計画

- ①新会員の歓迎・激励
- ②久米島高校との連携
- ③親睦レクリエーション
- ④琉球大学合格者、在学生の激励
- ⑤その他必要に応じて臨機応変に対応

宮古支部活動 「地域子ども教室」を利用した活動

支部長 安谷屋 昭

同窓会とは何をする団体なのか。特に大学同窓会は、中学・高校同窓会のように強く結び合った身近な団体と違って、地方(離島)で生活している者にとって一部の者以外にはなかなか見えてこない。

昨年、琉球大学同窓会創立50周年記念式典も行われ、そして創立50周年記念誌を読む機会を得た。

無知て無関心のまま過ごして来たが、知

り得たことが多くこの際と思った。まず同窓会事務局が大学側が提供した大学50周年記念館の一角にあること。大学側と学生への支援活動が行われ、相提携していることである。

琉大同窓会事務局は、今や独立行政法人となつた大学側の発展的課題に係わりつつ県外、学部・学科同窓会、そして各支部からの依頼等。数々の課題が山積する中を多大な努力を払い活動を推進していることである。

これから益々、社会や大学のありようが変革していく中、琉球大学同窓会の重要性、意義が高まり、果たす役割の大きさを強く感じた。

宮古の琉球大学卒業生は300余名である。卒業生は多いが支部活動に登録している方が少ない。その理由と考えられることは、社会の一線で働く現職の多忙さであり、また退職者は各種のボランティア活動や趣味を生かした諸活動等、様々な生活の中で同窓会へ参加する余裕がないようで、大学同窓会という大組織とその活動には手が届かないようである。卒業生としての意識はあるが、実践活動するところまでは意識は高まっていないのが現状である。

琉大同窓会宮古支部は元支部長の嵩原安雄氏と前支部長の下地康嗣氏の努力で、これまでは活動と休眠状態を繰り返して来たものを4年ほど前に再発足、活動を始めた。

今年度の活動は昨年度に引き続き、事務局役員と動ける評議員が中心となって主に小学生を対象とした活動内容を計画し、チームティーチング方式で指導体制を何とかつくって実施した。

場所や事業名は、国からの助成事業である「地域子ども教室」(沖縄県地域子ども教室推進事業運営協議会の推進事業)を「宮古少年自然の家」のアドバイスや協力の基に、この制度(平成18年度終了)を生かして支部役員が出来ることを以下のように試みた。

<平成18年度の活動内容>

- 4月3日 支部役員会 今年度年間活動計画等について
平成18年度琉大合格者激励文と図書カード発送
- 5月31日 支部役員会活動計画の再検討
- 6月10日 支部役員会今年度事業日程等の確認
役員改選等
- 7月11日 会計監査
- 7月14日 本部同窓会総会・支部長会(親泊宗二事務局長出席)
- 7月22日 宮古支部総会(役員改選等)、講演会、懇親会(レストランクール)
支部役員:安谷屋昭、仲宗根直子、親泊宗二、下地国雄、立津元勇
講演会講師:琉球大学農学部教授
新城明久先生
本部役員出席 激励のあいさつ
会長 赤嶺健治
本部同窓会近況報告 事務局長
宮城武久
- 7月28日 事務局会議 総会反省 役割分担確認



宮古支部総会記念撮影



子供教室: 講師(親泊宗二)

<地域子ども教室>

- 7月30日 「おもしろ理科の実験」
講師 徳原兼松 外3名
- 8月12日 「草笛、剣玉等の昔遊び」
講師 親泊宗二 外3名
- 8月13日 「植物の葉の観察」「葉づくり」
講師 下地秀男 砂川信夫 外3名
- 8月16日 「ふしぎなコップづくり等」
講師 徳原兼松 外3名
- 8月26日 「糸ノコ盤による動物の切り抜き」
講師 下地国雄 外3名
- 8月27日 「シーシャ頭作り」下地国雄 外4名

<他の大学同窓会との連携>

- 11月2日 講演会「持続可能な沖縄・宮古の開発」
講師 沖縄大学学長 桜井国俊

平成19年

- 1月27日 会員親睦G・G大会、懇親会
- 3月30日 琉球大学合格者激励文発送

<活動課題>

来年度からは、本部事務局あるいは琉球大学の出前講座が可能になれば、地域の課題や会員の教養、生涯学習の在り方を考える社会的な団体としての役割を少しでも果たせるものになりたい。

学内遊歩

～学校ビオトープ見本園～

蝶やメダカ、蛙、トンボ、などの身近な生物が観察でき、地域の生徒の自然観察の場所として活用されている。
「風樹館」裏



同窓生インタビュー

～沖縄県教育長仲宗根用英さん～

仲宗根用英:法文学部 経済学科 17期卒業

日時 平成18年12月8日(金)午後3時

場所 教育長応接室

<取材者>琉球大学同窓会

大城朝憲(16期卒、史学科)

比嘉正治(18期卒、法政科)



仲宗根沖縄県教育長(中央)

(仲宗根沖縄県教育長の・・・)

1. 学生時代はどうでしたか。

☆学生運動が激しい時期に、自分はどちらかといえばノンポリであった。

☆アルバイトに明け暮れていて、もっと勉強をしていればよかったと今になって思う。

☆ダンスパーティも華やかに行われてたが、経済的に行きたくても行けない状況だった

2. サークル活動はどうでしたか。

☆八重山(親)からの仕送りが厳しかったので、サークル活動している余裕がなく、アルバイト中心の生活を送っていた。

3. その当時の社会的背景はどうでしたか。

祖国復帰運動が盛んな時代であり、当時の佐藤栄作総理大臣がニクソン大統領と会談のため訪米することを知って、佐藤総理に対する要望(沖縄県民が納得する内容の実現)を新聞に投書したことがある。

☆ベトナム戦争で沖縄の米軍基地から戦場へ向かうといった時代背景がある。一方で、いざなぎ景気の真っ只中にあり、日本

は世界第二の経済大国になり、3C(車、クーラー、カラーテレビ)が登場した時代だった。

☆景気が良かったので、就職はし易かった。

4. この間、教育畑を歩んでこられて・・・

①教育畑は何年になりますか

38年(教諭:20年、教頭:2年、校長:4年、行政12年)

②教育畑を選んだ動機どんなことでしたか。

☆大学時代は経済学科に所属していたため、民間企業の社長になりたいとも思ったが、仕送りしてくれた親への恩返しのため、故郷の八重山に戻って教職に就いた。

八重山商工高校で4年を過ごした後、もう一度沖縄本島に行くことを決め、当時、企業からの引き合いもあって民間会社での就職も考える中で、学校との環境の違いに驚き、自分の選んだ教職を生涯歩む道として、一念発起し、新たな出発点ともなった。

③これまでに勤務した部署や、記憶に強く残ったことがありましたら教えてください。

(教諭時代)、

☆開邦高校の開校当初に在職して、本県において「人材をもって資源となす」といわれる重要性を深く認識し、学校教育に熱意を注いだ。多方面で活躍している；教え子達の姿に嬉しく誇りに思う。

(教頭時代)

☆南風原高校で県内で初めてコース制（郷土文化コース）を導入した。特色ある学校改革ができたと思っている。

(校長時代)

☆八重山農林高校では、低迷している畜産科に馬や牛を生徒として入学・卒業させたり、自動車教習所と提携して大型特殊免許の取得の仕組みを作るなどして活性化を図った。

☆学校の農場で五穀を育て、豊年祭や収穫祭を地域の人々と催し収穫した物を公民館に配布するなどして地域に本物の五穀をもたらした。

☆当時頻発していた生徒の交通事故対策として、警察官を初めて教壇に立たせることをやり、現在の「安全学習支援隊事業」などにも結びついたと思う。

(行政時代)

指導主事時代は生徒指導の担当をしており、毎年大きな悲惨な事件事故が起きて大変だった。(O高校生殺害事件、暴力団抗争に巻き込まれた神谷君射殺事件、H高校生実父刺殺事件、石垣のT君殺害事件)

☆後の行政時代(県立高校教育課長、教育次長、教育長時代)も教職員の不祥事、北谷の中学生殺害事件や交通事故など事件事故は絶えなかった。

☆また、後の行政時代6年間は教育改革の時代であった。中途退学者対策として、「高等学校生徒就学支援センター」の設置をするなどして歯止めをかけた。

5. これから教職を志す後輩に何かありましたらお願いします。

「経師は遇い易く、人師は遇い難し」の言葉どおり、知識を授ける先生は多いが、人を導く先生は少ない。最高の教科書は人間教師である。生徒への無限の可能性に対して、無限の責任を感じるべきである。学校が夢を与えれば、生徒は希望と誇りを持って学校に通うものである。

6. 同窓会に対するご意見等がありましたら…

現在活躍している同窓生の情報を網羅した名簿を提供いただけたらいいと思う。

結

私の研究

～未来を拓くEM技術～



比 嘉 照 夫

琉球大学農学部教授

農家政工学部農学科

1965年・13期卒業

はじめに

EMとは有用微生物群 (Effective Microorganisms) の英語の頭文字を略省し命名したもので、今では世界に通用する固有名詞となっている。EMの本質的な特性は人間や自然界に対し蘇生的に作用し阻害的な作用が全くない微生物の集団であるということである。

この世の中に万能は無いという常識を十分に心得てはいるが、EMの本質を知る私は敢えて「EMは万能である」と主張し続けているのである。したがって有識者といわれる人々はEMを使わずして反EMとなっている。しかし、今やEMは日本の津々浦々まで知れわたっており、プールやトイレの清掃や生ごみリサイクルなどにEMを活用している学校は3000校余となり、今年中に5000校を突破する勢

いである。

地球環境共生ネットワーク (U-ネット) を始めEMを普及するために設立されたNPO (非営利団体) は100余となり、EMの普及に携わっている任意団体は1000余ともいわれている。したがって、EM人口は1100～1200万人ともいわれ、世界150余の国々にも広がっている。

EMの応用範囲は無量大で万能である。チェルノブイリの原発事故に関与するウクライナとベラルーシの放射線生物学研究所での研究で、EMは放射能汚染をクリーンにするばかりでなく、汚染された農産物を食べて、セシウムやストロンチウムで内部被曝した人々に対し、EM-Xは抜群の効果があり、しかも、再被曝がかなりのレベルで防止されることも明らかとなっている。ダイオキシンを筆頭

とする様々な化学物質の分解や六価クロムや水銀、カドミ、鉛などの重金属の無害化など、その応用は多岐にわたっている。

平成13年からEMを大々的に使用し始めた九州の有明海は、数年前から豊できれいな海を取り戻し、その生産額は、歴代最高を更新し続けている。同じようなことが瀬戸内海でも起こっており、愛知県の三河湾も、EMよる矢作川の浄化とともに、きれいで豊かな海に変身中である。

特筆すべきは、大阪市漁協が行っているEMによる大阪湾再生事業である。180トン容量の釣り堀をEM培養器に改造し、1回で170トンのEM活性液を2週間に1回の割合で作る本格的な装置をもっていることである。このような規模は、世界に例はなく、広域に汚染された海や大型タンカー事故にも対応できるものである。

そのお陰で道頓堀川は、1年できれいになり、2年目には水泳が出来るレベルまで達し、淀川の河口域は、シジミが大量にとれるようになり「ナニワベッコウシジミ」として市場に再デビューをはたしている。その成果は、全国のシジミ産地に広がりつつあるが、東京の日本橋川のEMによる浄化運動の原点ともなっている。

EMを構成する微生物とその安全性について

EMに使用されている微生物は、食品加工に昔から使われている乳酸菌や酵母、納豆菌、コウジカビなどの発酵微生物と蘇生化作用の極めて強い光合成細菌類等であり、人間や自然界にプラスに作用してもマイナスが全くない微生物である。

その微生物達は、直接または間接に多様な抗酸化物質を作るため、自然界に存在する有用な微生物を活性化する機能を持っている。したがって、EMは自然の力を蘇生の方向に誘導する役割をはたすと同時に、他の有用な微生物の増殖源ともなっている。

例えば、自然界には、ダイオキシン等のあらゆる化学物質を分解する蛍光性の放線菌をはじめ、多様な微生物が存在するが、このような微生物は、環境が汚染され、酸化すると活動しなくなり、引込んでしまう性質を持っている。それらの微生物は、実験室で確かめる限り、超能力的な力を持っているが、それを、人工的に増やし、汚染地に散布しても、その場で増えないため、結果は悲観的なものとなる。したがって、これまで微生物による環境問題の解決の決定打のように報道された例は多数にのぼるが、実用化された例は1件もない状況である。

しかしながら、糖蜜や米のとぎ汁等でEMを増やし散布すると、環境が抗酸化状態に変わるため、蛍光性の放線菌や万能クロレラと称されるコッコミクサなど、

自然界に存在する蘇生的な微生物が大増殖し、たちまちにして、環境を浄化し、クリーンで豊かな大地、川、海へと変身するのである。

EMの安全性については、急性、慢性毒性は全く認められず、米国では、飲用のEMが「Pro EM・1」として販売されており、我国でも、EMを使ったビール、酒はもとより、漬物や様々な加工食品にEMが活用されている。また、アトピーやアレルギー、化学物質過敏症、生活習慣病対策はもとより、各種の難病にも顕著な効果が認められている。

生態系に及ぼす影響について

いかにいいものでも長く使い続けると必ず欠点が現れてくる。EMにはそのようなことは起こらないか、という質問が今でも残っている。EMが生まれて27年、普及に入ってから25年目、大阪市漁協のように想像を絶するような使い方をして、マイナスは現われず、むしろプラスが強化されるという特性がある。

その原理は極めて簡単である。すなわち、EMのような抗酸化物質を作る微生物

は、嫌氣的な性格が強く酸素が嫌いである。したがって、このような微生物達は、自然界では爆発的に増えることができず、主導的な役割をはたすためには、人間の手助けが必要である。

プラスチックの容器に糖類とEMの種菌を入れ、密封しPH3.5以下にならないと良質なEMは作れないのである。このような条件は自然界にはなく人的操作なしには、作り出すことは不可能である。このようにして増やしたEMを、ある一定以上の密度になるように投入すれば、劇的な効果が現われるが、投入を中止すると数ヶ月から数年以内には元に戻ってしまうという特性がある。

したがって、EMを長年にわたって大量に使い続けても、環境全体がEMだらけになり、微生物の生態系が乱されるということは全くなく、その25年間でそのようなクレームのついた事例は皆無である。したがって、このようにEMの素性は、すべて明らかになっており、役所の許認可を得る必要な全くなく、誰でも自由に増やして使ってもいい微生物である。

EMの使い方の要点

生物現象は選挙と同じように、多勢に無勢の世界である。したがって、EMの使い方の要点は、EMが多勢になるように使うことである。結論は「効くまで使う」ということであり、使い続けることである。極めて乱暴で極論だという人もいる



資料1. 屋上農園

が、EMは、ペットボトルと糖や米ヌカ、米のとき汁等で簡単に増やすことができ、コストは無限に、ただ同然に近いものであり、効くまで使うを徹底すべきである。

沖縄や山口、高知などで、かなりの酒造メーカーが、米のとき汁でEMを増やし、川をきれいにする運動に参加し、大きな成果を上げている。合併浄化槽にEMを入れたり、下水処理場でEMを活用すると、水質汚染源がたちまちにして、水質浄化源となり、水産資源の復活源に変える力となる。

農業でも、同じことである。EMを使ったが効果がなかったという人々は、EMの使用量が足りなかったか、良質のEM活性液が出来てない場合である。水田でも畑でも、10 a 当り100ℓ以上、500ℓも使えば、効果はてきめんであり、そこに降った酸性雨は浄化され、科学肥料や農薬の害も消え、下流の河川もきれいになる。また地下水も浄化され、環境や自然を積極的に浄化し保全するという事に直結することになる。

家畜には、1%のEM活性液を飲用させるだけで畜産公害の大半は解消し、その廃棄物は良質な有機肥料となる。EMで悪臭が消えれば、生の糞でも畑に入れてもよく、大がかりな堆肥化施設も不要である。効果が明確でない場合は、10倍～100倍液を畜舎全体に散布したり、飲ませる量を増やすだけである。



資料2. ホテルコスタピスタ沖縄

家庭では掃除、洗濯、トイレ、お風呂、野菜洗いなど、あらゆる場面に活用でき、環境を汚染する生活様式から環境を浄化するライフスタイルへの大転換も可能となる。

エントロピーからシントロピーへ

EMはいろいろな偶然が重なってできたもので、全く運が良かったとしか言いようのない背景をもっている。したがって、当初から既存の理論や常識に反することばかりであった。微生物に対し素人であった私は、事実を優先し、これまでの理論はこの事実を説明しえないという考えに徹し、様々なEMの応用を試みてきた。

すなわち、科学や学問もある条件で正しくても条件が変わると常に誤ちをおかす、ということを経験しているからである。したがって、EMの持つ万能性は自然の方向性に関与するものと考え、新しい理論の構築に挑んでいる。現在の科学技術の大半はエントロピーの法則にしたがっている。すなわち、あらゆる存在物は酸化しエネルギーを失い、バラバラ

(秩序を失い) になって汚染を残して亡ぶ、という原則には逆らえないということである。

要するに、自然界のベクトルで言えば崩壊の方向性である。それに対しEMを活用すると汚染はエネルギー化され、そのエネルギーが物質化を促進し、環境がきれいになるという現象が認められる。自然のベクトルから言えば蘇生の方向性である。この現象を説明する言葉がないために、平成9年(1997)にエントロピー(崩壊)の対極の概念として、シントロピー(蘇生)という言葉进行提案し、今ではEMで起こる万能的な蘇生現象をシントロピー現象と称している。

この技術は現代の医学で不可能といわれる難病などを、いとも簡単に解決する力があり、また、古い建築物を蘇生化させたり、あらゆる食品や機材の機能性を高めるだけでなく、各種の素材の高機能化に応用されつつある。

例えば、この技術を塗料に応用すると、建造物の強度が強化されるばかりでなく、冷暖房効果も抜群に改善され、その塗料に触れる空気も酸性雨も浄化される。更に、EMを室内外で徹底的に活用すると、耐用年数は数倍も長くなり、耐震性もかなり強化されることも明らかとなっている。鉄も金なみの機能性を持たせることも不可能ではない。

したがって、このようなEM技術を活用すると、文化財の保護も安くて簡単に行

うことができ、信じられないようなことが次々と起こってくる。原理的にいえば、EMが産生する多様な抗酸化物質が酸化を防ぐばかりでなく、すでに酸化した部分の酸化を消し、蘇生化させるためである。

この現象は触媒的な抗酸化作用であり、物質や組織に宇宙エネルギーを注入しない限り起こりえないものである。このような蘇生作用を説明するために、私は、重力波によるエネルギーの取り込みと主張しているが、科学的な論議はこれからである。

EM技術が拓く未来像

私は平成5年(1993)に「地球を救う大変革」という本を出しEMの真価を世に問うことにした。14年経過した今日、どうやら、この技術は本物らしいという所にたどりつき始めている。結論的に言えば、EM技術でもって人類のかかえる世紀的な課題、すなわち食料、環境、医療、健康、資源エネルギー問題を解決し、望ましい未来型の高度情報共存共栄社会を構築するということである。

そのためには、世界中の山や畑や水田でEMを使うことに始まり、世界中の人々があらゆる分野にEMを活用し、EMを水や空気と同じように使うようになれば、容易に実現することが可能であるということである。

おわりに

EMに対する賛否両論はこもごもであるが、EMの性質を知った上で検証した人々はEMを絶賛し、検証しなかったり、誤ったEMの使い方をした人々は否定的である。

EMに関する論文は中国だけでも、すでに1500余、全世界では3000編を超えており、EMでの学位取得者は30余人となっている。

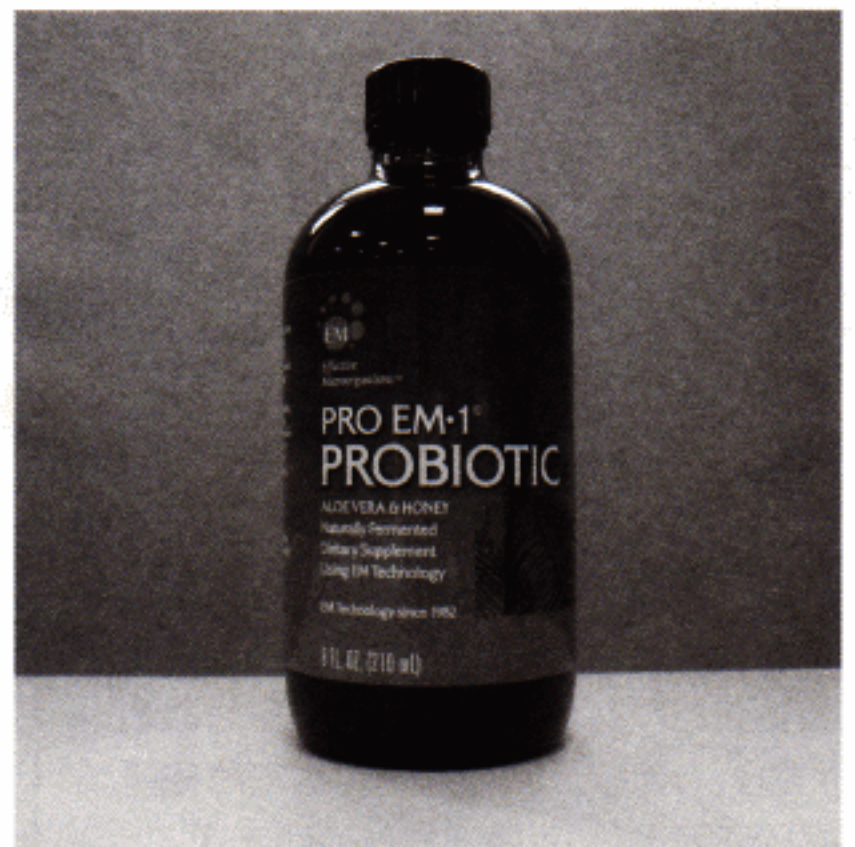
いずれにせよ、その効果を実証し、世界にEM情報を発信する必要がある。平成18年4月北中城村にEMウェルネスセンターをスタートさせた。13年間も放置され損傷もひどくなり、解体以外に方法はないとされ、「幽霊ホテル」といわれた旧ヒルトン・シェラトンホテルをEM技術で蘇生させ、土木建築業界から驚異的な評価を受けているホテル「コスタビスタ沖縄」はその一部である。

屋上はEM技術による農園となり、天水をはじめ水のリサイクルはもとより、あらゆる分野にEM技術が活用され、EMに関する様々なイベントが行われている。

四月からは、EMメディカルセンターも

併設され、また、北中城村はEMのモデル村として名乗りを上げ、村長を中心に積極的にEMの普及に取り組んでいる。

名桜大学も平成18年にEM技術研究所を設立し、近い将来において、EMに関連する学部の創設をめざしている。子供の頃から沖縄のために役に立ちたいという素朴な夢が実現しつつあり、学者として大学教授として社会的な役割を果たし得たという安心感をもって退官できることは望外の喜びである。



奄美支部同窓会総会に出席した折りに、奄美の
想いを短歌に詠んで寄せて頂きました！

(事務局)

奄美の山

比嘉美智子

天涯へつづく蘇鉄の森きて

奄美の山の濃緑深し

白雲は生あるものの如くにも

大鷲の翼青空にひろく

糸芭蕉ひと山占めて群生す

芭蕉布織る女絶えし奄美に

「一村」の描きしアダンの木の向より

潮鳴り聞ゆる奄美の浜の

～入会金と終身会費納入願い～

みなさんは、入学と同時に同窓会員になることになっています。「会員は入会金」1万円を納入して頂きますようお願いいたします。

また、卒業した会員は、「終身会費」1万円の納入をお願いしております。同窓生の母校に対する数々の支援と同窓会活動にご協力頂きたいとお願い致します。振り込みは郵便局にてお願いします。

～会報送付について～

転居による住所変更や住居表示変更などがありましたらお知らせお願い致します。会報を送付しても住所「不明」として、返送されています。

裏表紙記載しています通信方法(FAX、Eメール、電話)で、同窓会事務局まで、よろしく申し上げます。

平成19年度定期総会開催の予告案内

- 期 日 平成19年7月21日(土)
場 所 ホテルロイヤルオリオン(旧西武オリオン)
1. 総 会 午後5時～午後6時
 2. 講演会 午後6時～午後7時30分
「新学長の抱負と大学運営の展望」(仮題)
 3. 懇親会及び学長激励 午後7時30分～午後9時
 4. 会 費 5,000円

編集後記

関東支部結成20周年を迎えおめでたい年であった、各支部からも充実した活動報告が特筆する内容となりました。(局)

琉球大学同窓会会報 第29号

編集発行 琉球大学同窓会事務局

〒903-0213 沖縄県西原町千原1番地

Tel: 098-895-8039 Fax: 098-895-8163

Email: r-dousou@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

ホームページ: <http://www.ryudai-dousoukai.jp>

印刷 合資会社中央製版印刷